

クローズアップ マイタウンJOTO

あなほら

船原 あづささん(森之宮在住)

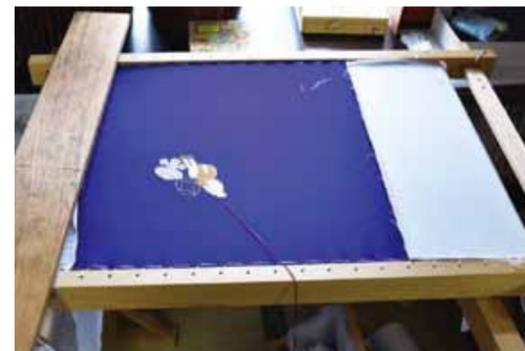
日本刺繍に魅せられて 伝統を伝えるひとに



着物や半襟、帯など和装のものに施されている日本刺繍。繊細な色使いと立体感、絹糸の光沢、花や鳥など古典文様を中心とした洗練された図案など、格調高い美しさで見る人を魅了します。その美しさも、絹糸で一針一針縫い上げる、気の遠くなる作業があってこそ。今回は、森之宮をはじめ、全国5カ所に刺繍教室を持ち、日本刺繍の普及と伝承に貢献する船原あづささんに、その魅力についてお話しいただきました。

1300年を経て 鮮やかさを残す日本刺繍

絹地がパンツと張られた刺繍台を前に、右手は布の上から左手は布の下から、一針一針ていねいに刺していく船原あづささん。船原さんは日本刺繍一筋40年、自身の腕に磨きをかけるとともに、日



▲刺繍の良しあしを左右する台張り

本刺繍の教育と普及に努めてきました。それほどまでに船原さんを夢中にさせた日本刺繍の魅力とは？

「絹地を絹糸で縫う日本刺繍の艶と感触は何ともいえません。それと持ちがいいこと。古い着物を見ると生地は傷んでいるのに刺繍はそのままの形で残っていることが多いんです。現存する日本最古の刺繍は、奈良の中宮寺『天寿国曼荼羅繡帳(国宝)』。1300年以上前のものなのに刺繍が鮮やかに残っているんですよ」

日本刺繍は、5世紀ごろに仏教と共に大陸から伝わり、当時は信仰のための繡仏しゅうぶつに使われていました。庶民の間で広まったのは安土・桃山時代以降と言われています。

※刺繍で仏像や仏教的な主題を表現したもの



▲ブレや迷いのない静かな動作で針を進める

46通りの技法で 縫い分ける

日本刺繍の艶を創り出す絹糸。繭玉一粒から取れる生糸の長さは約1000mで、最近では品種改良が進み1300mもとれるそうです。繭からはぐし出した糸はととも細く、そのままでは糸としては使えません。10本ひねって1本の糸にしていきます。針の種類も十数種類、糸の太さで使い分けます。



▲使用する針は職人の手作り



▲金糸で刺した扇に紅白牡丹の文様がゴージャス



▲それぞれの花の魅力を刺繍で表現

嬉しくて、すぐに山陰へ向かいました」それから船原さんは米子と出雲に一人ずつ後継者となる人を育ててきました。「お一人は、ご主人も一緒にあいさつにみえて最初から『遊びでなく、教えてやって欲しい』と頼られました。私は一人身だから集中して仕事ができましたが、家庭のある方はそうはいきません。腕の確かな方を探して、困った時に助け合ってほしいと伝えています」

刺繍の楽しさを たくさんの人に

将来の夢は2つあります。一つは老人クラブで日本刺繍を教えること。

「今、京縫いを勉強しています。私が40年間続けている縫い方は、袋帯や留め袖などフォーマルなカチっとした装いに用いられていて、非常に細かい作業なので歳をとって続けていくのが難しいのです。老人クラブで教えて欲しいと頼まれているんですよ」

もう一つの夢は、刺繍で地図をつくることだとか。

「昭和61年にユナイテッド航空の新聞広告に、アメリカ大陸と50州の花がありました。見た瞬間、刺繍ならどんなに素敵だろうと思い、アメリカ領事館に花の名前を確認し、下絵も済ませ、後は刺すだけと準備万端。ところが、生徒さんは『飾るところがないので』と刺してくれません(笑)。長く温めてきたアイデアに日の目をみせてやりたい。いよいよ自分で刺さなきゃならないかと思っています」

80歳を超えてなお、創作意欲を失わない船原さん。一番、幸せを感じる時間は

「私語のない静かな教室で、生徒さんのプツッ、プツッと針を刺す音だけが聞こえるとき」

刺繍に魅せられた船原さんこそが、年月を経ても輝きを失わない刺繍のようでした。

新しい絹糸と古い絹糸は手で切ってみるとわかるか。

「新しい絹糸はプツツと良い音がしますが、古くなった絹糸はスーッとバラけるだけです」

刺繍は、あらかじめ下絵を映した布に、菊、あやめ、椿、鶴や鳳凰など、その柄にあった技法で刺していきます。その種類は、46通りもあるそうです。

「一枚の着物に12、13種類の技法を使います。色留め袖に刺繍するのに6か月かかります」

私がお人様に教えるなんて

船原さんが刺繍と出会ったのは、昭和51年のこと、刺繍のブームでした。

「もともと手仕事が好き。百貨店で刺繍の講座があると聞いて飛んでいきました。

面白くて無我夢中でしたが、まさか人様に教えるようになるとは思ってもみませんでした。近所の人に教えたのがはじまりです」船原さんは、千葉県に本部がある日本刺繍紅会で日本刺繍の基礎を学び、昭和54年に教師免許を取得。紅会では「1日最低4時間刺しなさい」と言われていたそうです。後に米子で「日本刺繍あづさ会」を結成し、現在は、大阪・米子・出雲・草津・名張に教室をつくり、40人近くの生徒を教えています。

米子と出雲に教室を開いたきっかけは、今から26年前にNHKの番組で日本刺繍が紹介されたことでした。

「番組を見た米子在住の方から『刺繍をやりたい』と問合せがありました。小京都の松江あたりには刺繍に関心を持つ人がいるのではないかと考えていたので



▲アメリカ大陸の州花を日本刺繍で表現したいと話す船原さん

CONTENTS

- 2 **クローズアップ** 日本刺繍に魅せられて伝統を伝えるひとに 船原 あづささん
- 4 **トピックス** 防災週間／大阪880万人訓練／高齢者福祉月間
- 6 **お知らせ** 学校選択制のご案内／奨学金制度説明会／特別弔慰金の請求はお済みですか
- 8 **子育て** 保育所・認定こども園等の利用申込を受付します／みんなで子育て・みんなで応援わくわく子育てフェスティバル
- 10 **健康** 「胃内視鏡検査」を開始／予防接種・結核健診・各種がん検診等の日程
- 12 **相談** 城東区役所での専門相談／市民法律相談／行政相談／就労相談／経営相談
- 13 **イベント・講座** オータムチャレンジスポーツ／セレッソ大阪城東区民デー／ゆっくりらくごロビーコンサート
- 17 **城東区通信** 松本区長の城東大好記／地活協だより／2025年万博を大阪・関西へ
- 18 **おおさか掲示板**

